令和6年度 学校評価実施報告書

学校名: 五常小
校長名: 榊 正文

1.学校教育目標
【スローガン】 毎日楽しい学校 【めざす学校像】 児童が感動し、児童の期待に応える学校 【学校の使命】 児童が安心して楽しく通える安全な学校づくり 児童の確かな学力の育成、学力の向上

2.めざす子ども像
【教育目標】 よく学び 思いやりのある行動をする たくましい子 【今年度重点目標】 自ら学び、自他を尊重し、仲間と高めあえる子の育成

基本方策	重点項目	具体的な取組内容 本年度の重点的な取組（4月）	取組指標（誰が、何を、どのくらいの頻度で）	評価指標（目標）※具体的な数字を入れる	中間報告	分析（成果と課題）	改善策
確かな学力と自立の力を育む教育の充実（学力向上プランと連動）	基礎学力の向上	朝学習（オビタイム）の推進	毎朝15分のオビタイムにおいて、 漢字前倒し及び反復学習・音読・百ます計算（毎日）	12月学年別「熟語」テスト 平均正答率70%以上（3月80%） 保護者アンケート 学校は、基礎基本の定着に向けて取り組んでいる 90%以上	オビタイム 2~6年 5月に配当漢字（上巻）終了 音読暗唱・百ます計算・漢字テスト（2週目）をスタート 1年の1週目と、2~6年（上下巻）2週目は12月初旬終了予定 音読・百ます計算も順調 配当漢字計測テスト1回目（7月）昨年より平均得点が15P改善された。（◎） 保護者アンケート 93%（◎）		
	自律的に学ぶ力の育成	五常小検定の実施	漢字、百ます計算、音読・暗唱のマイスター認定制度の運用（2学期より）	段位獲得児童 のべ400名以上 児童アンケート 家で自分で計画を立てて学習している 85%以上	マイスター検定の各段位の認定基準を再設定。11月から検定開始。児童アンケート 73%（○）		
	自己決定できる子ども主体の学びの実現	自己決定できる子ども主体の学びの校内研究	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業を行う。（※複線化及び自由進度学習）	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業	各学年1本の研究授業を実施予定。特に2年生で進捗が良好。		
豊かな心と健やかな体を育む教育の充実（体力向上プラン・道徳教育全体計画等と連動）	いじめ不適切事案が起きにくい風土の醸成	ルールメイキングとぶれない生徒指導	総合の学習で6年生と学校のルールをつくるとともに、そのルールに基づき自律心を育てる課題予防的生徒指導を行う。（通年）	児童アンケート 先生は自分たちの意見や考えを大切にしてくれる 90%以上 落ち着いた雰囲気の中で授業を受けている 80%以上	児童アンケート 大切96% 落ち着く83%（◎） 研修課のルールメイキングプロジェクトに参加 2学期から半年間総合の学習で6年全員で取り組んでいく。		
	食育の推進	「食育の6つ視点」を指導	給食時間を中心に、各教科、総合的な学習の時間、特別活動をはじめ、教育活動全体を通じ、「食育の6つ視点」を指導していく。また、食物アレルギーや、障がい、個人の身体状況などを考慮し、個に応じた対応を入れていく。	児童アンケート 「配膳されたものを残さず食べられた。」 70%以上	（食育の6つの視点） ・食事の重要性・食事の喜び・楽しさを理解する。（食の重要性） ・心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとりかたを理解し、自ら管理していく能力を身につける。（心身の健康） ・正しい知識・情報に基づいて、食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。（食品を選択する能力） ・食べ物を大事にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心をもう。（感謝の心） ・食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける（社会性） ・各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。（食文化）		
教職員の資質と指導力の向上	児童との時間を生み出す働き方改革の推進	超勤時間の管理 業務の精選 業務改善チームの稼働	教職員個別の時間外勤務時間を見える化する。 教職員のボトムアップで細かい業務の精選と削減を行う。 効率的な評価のありかたの検討と休み方改革の試行実施。	平均超勤時間の削減 昨対 1H／月・人 ストレスチェック指標の良化 教員アンケート 校長は業務改善を図り働き方改革を行っている 86%以上 教職員は業務改善を意識して働いている 90%以上	平均超勤時間 本校昨対 1H／月・人減（○） 今年度働き方改革 ストレスチェックを成果指標に ①計画年休制度「ラーケーション」の試行実施、②学年チーム制を低中高学年で本格実施、③休憩室の設置準備、④校内研修「私の目標」の実施 ⑤企画の具体化は改革チームで行う ⑥オフィスグリコの実施 ⑦「学校の役割と責任の明確化について」令和6年度改定を実施。改定案作成にあたり1月間保護者意見募集を行い成案とした。		
	自己決定できる子ども主体の学びの実現（再掲）	自己決定できる子ども主体の学びの校内研究	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業を行う。（※複線化及び自由進度学習）	複数回の研修とともに、個別最適な学び※をテーマに、最低1本の研究授業	同上		
学びのセーフティネットの構築	いじめの未然防止や早期対処の仕組みづくり	いじめ対策委員会含む 組織の機能改善	市の方針改定を踏まえるとともに、保護者等が具体的に現在のいじめの課題を認識できるよう「基本方針」を改定する。 いじめ発生時の聞き取り、記録、検討、対処、進捗確認が迅速かつスムーズに行われるよう、生徒指導の校内体制を刷新する。	児童アンケート 学校が楽しい 90%以上 先生は困った時にいつでも相談に乗ってくれる 90%以上	児童アンケート 楽しい92% 相談94%（◎） 「基本方針」を改定済み。保護者にいじめの課題について、1月間の意見募集を行った。発生時の迅速な対処が可能になるよう担任外の生徒指導主担者を置いた。		
	非常変災時の危機管理	非常時に真に役立つ訓練へと改善	改定した危機管理マニュアルを遵守するとともにガイドラインに沿って適宜見直す。警察・消防等に指導を受けるなど各種非常時訓練を真に役立つものに改善し、保護者にも周知する。	保護者アンケート 非常変災時に備え適切に安全教育を行っている 90%以上	保護者アンケート 96%（◎） 不審者対応訓練は、枚方署防犯係の指導のもとシナリオなしで実施。消防訓練は、昼休みに抜き打ちで実施予定。普段とは異なる条件下で起こることを想定し、臨機応変に対応するための、またより児童と教職員の安全を確保しうる訓練となった。マニュアルは不審者発見プロセスを改定充実させた。		
	児童の居場所の確保	コミュニティスクールによる 子どものための新たな居場所づくりプロジェクト	校内に不登校や学校・学級に入りづらい子どものためのプロジェクト「子どもたちの新しい居場所」をコミュニティスクールの取り組みとして週一回以上実施する。 税を投入せず事業者と協力者によって自立・自律的かつ持続可能な運営を行う。	新たな不登校児童を2名以下に抑える。	民間事業者「子どもは未来」による「子どもたちの新しい居場所」は毎週金曜に実施している。利用者は他校含め3名（今年度新規2名、他校1名）。 昨年度から通っていた不登校児1名は、今年度毎日登校し通常学級に入っている。通常学級に入れなかった他の1名は、給食時に入れるようになった。今年度は校外での活動を増やしており、その特性に合う児童と保護者に支持を得ている。		
（学校独自の取組） 家庭・学校・地域の連携	学校情報を積極的に発信	学校情報を毎日積極的に発信	学校の経営方針、学校評価、ブログ、学校だより等で学校情報を毎日積極的に発信する。	ブログアクセス数 350件以上／稼業日（家庭数約390） 保護者アンケート 学校の様子がよくわかる。 90%以上 保護者アンケート 学校の方針や教育の重点が明確である。 90%以上 総アクセス数 8万4000件／年	更新1504回 アクセス333件／稼業日 総アクセス数3万7268件（9／18） 保護者アンケート 様子94% 重点95%（◎）		
	保護者ニーズを踏まえた学校経営	校長へ直接意見する仕組みの運用 重要案件への保護者の参画	校長へ直接意見を届ける仕組み等により保護者意見を汲み取って実現する。また、学校の考え方や改善状況を学校だより等で報告する。 重要案件について保護者意見を踏まえて成案とする。（通年）	保護者アンケート 保護者ニーズを踏まえた学校経営を行っている。90%以上	保護者・地域による清掃・花壇チームが校内美化で大活躍。枚方高生物飼育部とコラボし、児童と「メダカ救出大作戦」「天の川フィールドワーク」を実施。広報ひらかたにも掲載された。 「学校の役割と責任の明確化について」令和6年度改定にあたり1月間保護者意見募集を行い成案とした。 保護者アンケート ニーズ 95% 校長への意見提言26件 アンケート自由記述30件 毎月の学校だよりで返信している。体操服のゼッケン廃止は、保護者意見を実現。保護者の負担軽減とともに、教職員の働き方にも通じるものである。		
	児童の居場所の確保（再掲）	コミュニティスクールによる 子どものための新たな居場所づくりプロジェクト	昨年開設した子ども食堂を月2回に増やし、子どもの居場所にするとともに、平日に開催することにより、主に孤立しがちな共働きの保護者同士のネットワークづくりを支援する。新たに税を投入せず事業者と協力者によって自立・自律的かつ持続可能な運営を行う。（通年・毎日）	子ども食堂を月2回	子ども食堂は月2回金曜に実施。（9月末までに11回）留守家庭児童会の協力を得ることで、週末晩の仕事帰りの家庭を中心に大幅増。毎回100人以上が来場、手伝いを申し出る保護者が増え、児童と保護者の居場所になっている。付属イベントとして、9月13日にプロのピアニストによる演奏会を音楽室で行ったところ、2回の公演は満席で大盛況だった。 「おしごとマルシェ」は、市内他校での実施を促進し、校内での開催は1月に1回を予定している。 上記の運営（費）には、食品等の寄付、食事等の売上、市の子ども食堂補助金とともに、ふるさと納税企業版を活用している。しかし、収入は100万円未満にとどまり、運営財源の拡大が喫緊の課題である。		

学校関係者評価（学校運営協議会または学校評議員と保護者からなる学校関係者評価委員会による）年度末		
評価結果	改善に向けた支援策	